

京阪神都市圏における被害概略の把握

平成14年3月6日

内閣官房都市再生本部事務局
内閣府（防災担当）
国土交通省近畿地方整備局

目 次

はじめに.....	1
地震被害想定支援ツールの概要.....	1
地震被害想定ツールによる被害想定算定の前提条件の設定.....	3
有馬 - 高槻断層帯.....	3
生駒断層帯.....	3
地震被害想定ツールによる被害想定の結果.....	4
有馬 - 高槻断層帯.....	4
生駒断層帯.....	4

はじめに

京阪神都市圏における被害概略を把握するため、地震調査研究推進本部によって詳細な諸元が出されている有馬 高槻断層帯及び生駒断層についてのみ、内閣府(防災担当)が地方公共団体等に対してHP上で公開している地震被害想定支援ツールにより想定した。

地震被害想定支援ツールの概要

これまで多くの地震被害想定は地方公共団体が主体となって実施していたため、その被害想定は行政界の範囲のみを対象として実施されていた。

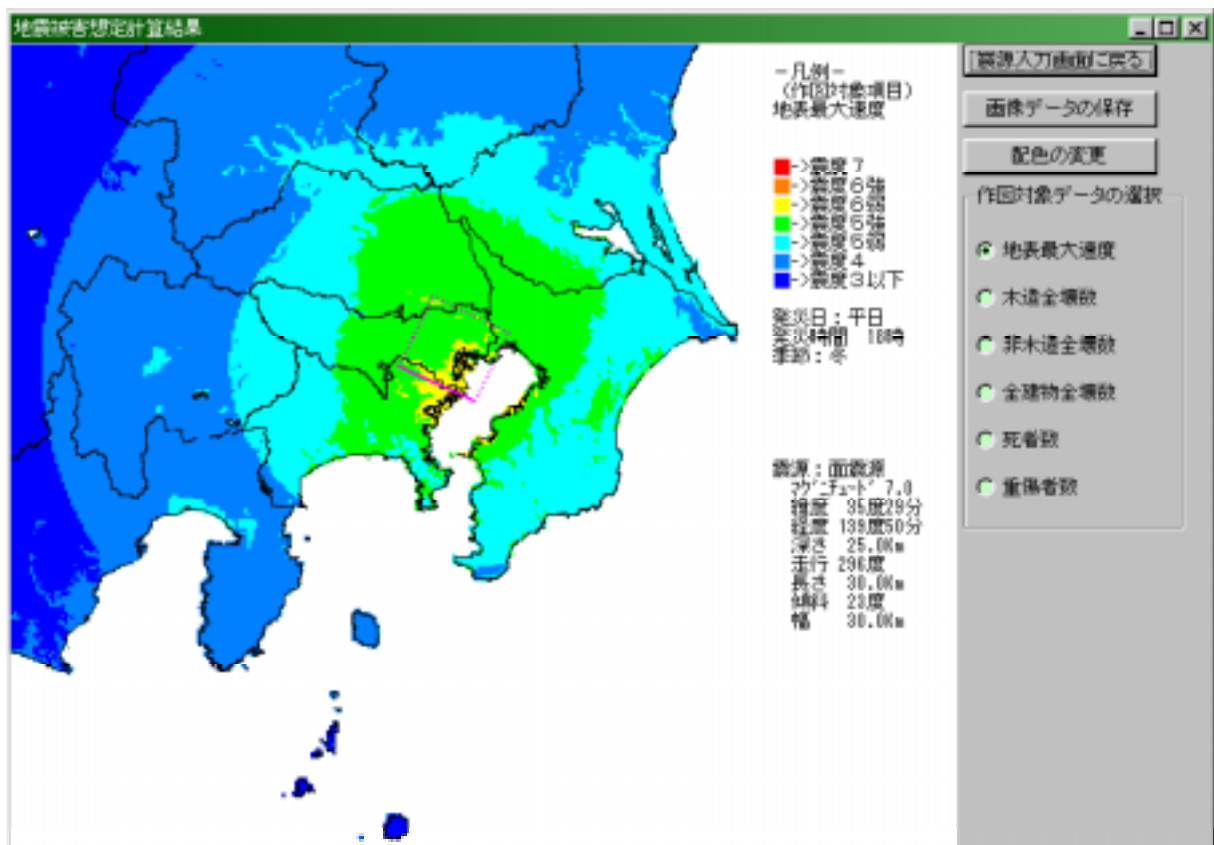
このため、国土庁(当時)では、震源を入力することで自動的に広域的な地震動の分布や基本的な被害が想定できるプログラムソフトウェアを開発することとし、平成11年より「地震被害想定支援ツール」として公表している。

このツールでは、被害を推計するために必要な被害率や計算式としてマニュアルで開発された手法を利用している。また、計算に必要なデータとして、国土庁で整備していた国土数値情報や公共団体から提供された建物棟数等から作成した独自データを用いている。これらの式とデータはあらかじめプログラムに組み込まれており、実行の際に震源の規模や経緯度などを数値で入力して計算させると、被害の分布を示す画像や、被害の一覧表を出力することが出来る。

なお、「地震被害想定支援ツール」で用いている計算式などの手法は、適宜改良を行うこととしているマニュアルの最新の内容を用いているため、ツール自体も最新のものであるが改良の途上といえる。現在、最新の検討成果を試験的に公開して、一般に試用してもらって意見を聴いているところである。

地震被害想定支援ツールの条件入力画面(例)

地震被害想定支援ツールの結果表示画面(例)



地震被害想定ツールによる被害想定算定の前提条件の設定

震源の深さについては、活断層において一般的と思われる10kmで設定した。また、季節・時間帯については、冬の平日18時で設定した。

有馬 - 高槻断層帯

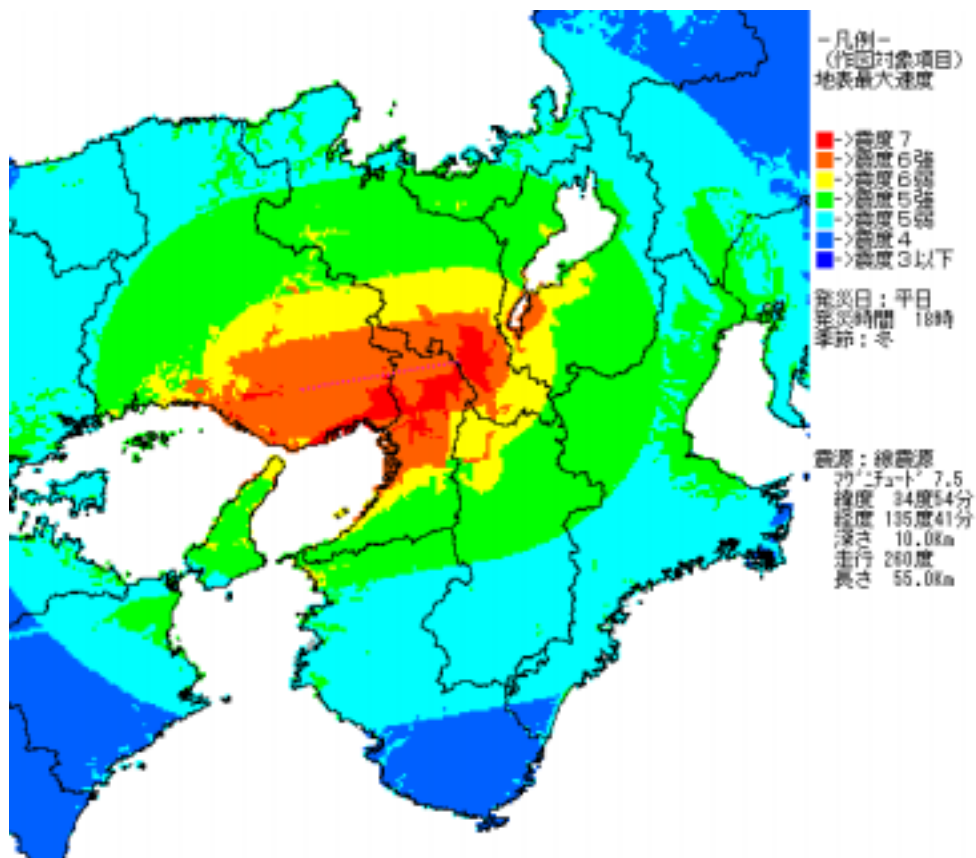
	地震調査研究推進本部(H13.6.13)	地震被害想定支援ツール
発生時刻	-	冬の平日18時
マグニチュード	7.5±0.5	7.5
震源深	-	10km
長さ	55km	55km
走向	260度	260度
緯度・経度	北緯 34° 57 東経 135° 41	北緯 34° 54 東経 135° 41

生駒断層帯

	地震調査研究推進本部(H13.5.15)	地震被害想定支援ツール
発生時刻	-	冬の平日18時
マグニチュード	7.0 - 7.5	7.2
震源深	-	10km
長さ	38km	38km
走向	190度	190度
緯度・経度	北緯 34° 52 東経 135° 41	北緯 34° 52 東経 135° 41

地震被害想定ツールによる被害想定の結果

有馬 - 高槻断層帯



生駒断層帯

